

日本深層心理研究会（JDP研究会）創立10周年にあたって

元深層心理研究部会 事務局 小林 克巳



JDP研究会創立10周年おめでとうございます。

私にとって前身の深層心理研究会との出会いは生涯忘れることのできないことばかりでした。

1972年(昭和53年)現在の職場、千葉テストセンター入社以来に始まります。

研究会自体昭和46年くらいから活動していました。その頃は催眠教育セミナーという名前で広く会員を募集しておりましたが後々催眠に対して誤解などが生じ、深層心理教育セミナーという名前で再スタートしたと記憶しております。

山口 彰先生とお会いしたのもそのころでした。お身体はそんなに大きくないのに、体から発散される何かを感じ、目の鋭さ、瞬間催眠の凄さなどびっくりすることばかりでした。

山口先生が埼玉県飯能市在住ということもあり、セミナーを飯能で開催いたしました。

2泊3日のそれはもう休むことなく実習と座学のハードな内容でした。宿泊という関係もあり夜のアルコールセラピーもなかなかの人気講座でした。

会員の先生は殆どが教員で、児童、生徒理解に活用したいとの思いで参加されていました。ピグマリオン効果が礎となり始めたころかもしれません。

昭和58年から宿泊研修はなくなり3日間通っていただく研修に変更になります。会員が増大しはじめたのがこの頃かと、特に中京地区からの参加は目をみはるものがあり、JDP研究会の佐藤 秀会長も59年会員と記憶しております。

会員の先生がたも教員以外の参加が目立ちました。

自律訓練法を習得したい、方法論も勉強したいなど、催眠の技法だけではない色々な意見を頂いた頃でございました。

その後、諸般の事情により深層心理研究会は、平成14年を最後に、日本深層心理研究会へバトンタッチされたわけであります。

会を始めるのは簡単だけれど、閉じるのは大変だと、今は亡き事務局長の千葉 武夫はよく話しておりましたが、佐藤 秀先生はじめ名古屋の先生方に安心して後を任せることができるかと話しておりました。

長年の人間関係、同じ目的に向かっていた思い、絆、が現在の型として存在しているのではないかと思います。

現在も、山口先生がお元気で活躍されていることも嬉しく思っております。これからも、JDP研究会のさらなるご発展を心よりお祈りしております。